



### 業績ハイライト

|       | 17,919 | 17,919 | 前期比    |
|-------|--------|--------|--------|
| 売上高   | 百万円    |        | +6.3%  |
| 営業利益  | 966    | 966    | +90.7% |
| 経常利益  | 688    | 688    | +1.7%  |
| 当期純利益 | 468    | 468    | △13.4% |

### 貸借対照表ハイライト

(単位：百万円)

| 科目          | 前期<br>平成27年3月31日 | 当期<br>平成28年3月31日 |
|-------------|------------------|------------------|
| 流動資産        | 10,754           | 11,111           |
| 固定資産        | 17,894           | 17,121           |
| <b>資産合計</b> | <b>28,648</b>    | <b>28,232</b>    |
| 流動負債        | 11,622           | 12,399           |
| 固定負債        | 10,500           | 9,027            |
| <b>負債合計</b> | <b>22,122</b>    | <b>21,426</b>    |
| 純資産         | 6,526            | 6,806            |
| 総資産         | 28,648           | 28,232           |

### ■当期のポイント

- POINT 1** 感光性材料事業は、半導体向け、およびディスプレイ製造向け感光性材料のマーケット拡大と需要増により販売が好調に推移し、増収増益。
- POINT 2** 化成品事業は、香料材料分野では海外販売が堅調に推移。グリーンケミカル分野は、半導体・フラットディスプレイ向けの需要が好調、ロジスティック部門は、タンク契約率、回転率ともに高水準で推移。この結果、増収増益で黒字化。
- POINT 3** 経常利益の小幅増益(+1.7%)は、円高進行により生じた為替差損による。当期純利益は、法人税等の欠損金調整が前期で概ね完了し、今期より法人税を計上した影響により前年同期比で減益。

### 業績概要

\*2014年度より非連結開示となっております。

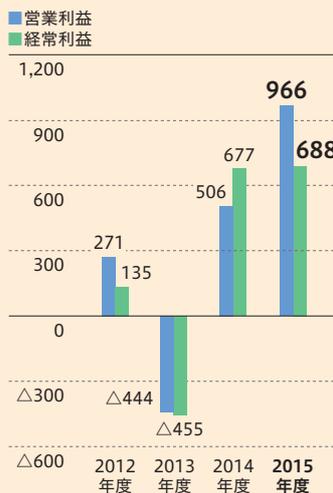
#### 売上高

(単位：百万円)



#### 営業利益/経常利益

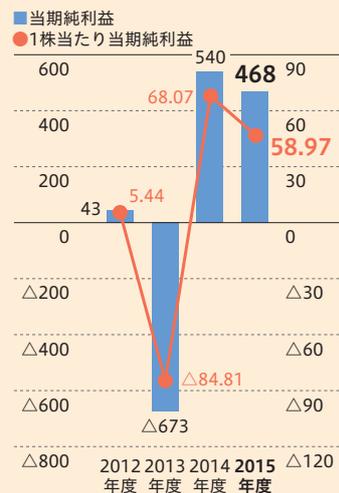
(単位：百万円)



#### 当期純利益/1株当たり当期純利益

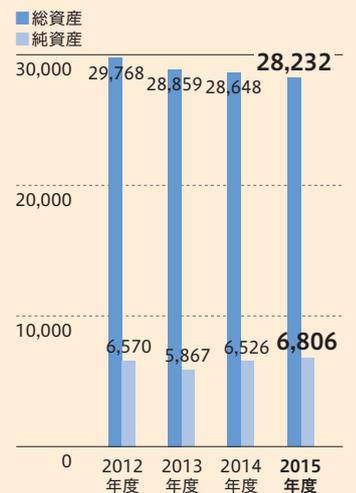
(単位：百万円)

(単位：円)



#### 総資産/純資産

(単位：百万円)





代表取締役社長

木村 有仁

## 組織機能の強化を通じて、 既存事業のさらなる成長と新事業の創造を図っていきます

### 当期の決算概要について

当社を取り巻く外部環境は、欧米では個人消費が底堅く緩やかな回復が続く一方、中国や新興国で減速の傾向が見られました。国内は、設備投資の緩やかな増加や雇用情勢の改善が見られたものの、年明け以降の急激な円高が企業業績に影響を与え、個人消費の停滞などにより足踏み状態が続いています。

このような状況のもと、当社は、お客様との関係強化や積極的な拡販、新製品の開発、コスト削減に取り組み、年度前半の円安効果もあり、感光性材料セグメント、化成品セグメントともに堅調に推移しました。この結果、当期の売上高は、前年同期比6.3%増の17,919百万円、営業利益は、同90.7%増の966百万円と、大幅な増収増益となりました。また経常利益は、2016年1月以降の円高進行による為替差損の計上などにより、前年同期比1.7%増の688百万円となりました。当期純利益は、過年度の繰越欠損金の調整が概ね完了し、当期より法人税等を計上したことから同13.4%減の468百万円となりました。

### 中期的な方向性と強化ポイントについて

現在当社は、世界経済の停滞、地政学・災害リスクの増大による不安定な政治経済環境と、成熟した社会により、低金利・円高・原油安傾向が続き、依然として厳しい事業環境にあります。その中で、当社の位置する素材産業は、イノベーションによる需要喚起に向けた機能性化学品<sup>※1</sup>産業の成長と、新興国需要へのシフトが続いています。これらの変化に対して、当社は、創造的かつ先進的な製品・サービスの開発を通して、グローバルな競争力を強化することで事業成長を果たし、ひいては、人類文明、社会に貢献していきたいと考えています。この実現のため、中期的に、事業の拡大と財務体質の改善の両立を図っていきます。

まず事業面では、①マーケティングと研究開発の強化、②生産技術の高度化による資産効率の向上、③優秀な人材確保と生産性向上のための組織改革・人材開発の3つの組織機能の強化をポイントに据えて、既存事業のさらなる成長と新事業の創造を図っていきます。その中でも研究開発については、現在、機能性化学品の分野において付加価値の高い製品の開発・販売に力を入れており、当期の研究開発費は、前年同期比で12%増とな

※1 機能性化学品…特定の製品機能を高精度で実現する化学製品。半導体製造用材料や液晶ディスプレイ材料が挙げられる

### トピックス①

## 外環道の開通でさらなる高稼働が期待される高浜油槽所



ロジスティック事業の高浜油槽所は、昭和46年に創業し、日本の戦後復興期における石油化学産業の勃興を支えてきました。一般的に、国内外の工場生産された液体化学品が大都市消費地へ販売される際、化学品はタンカーによって海を渡って運ばれ、沿岸タンクに一時保管され、その後、タンクローリーなどの車両によって陸上輸送されます。この荷役、およびタンクでの一時保管を担っているのが油槽所です。この事業には消防法規制など高い参入障壁があり、さらに当社の高浜油槽所は、ファインケミカル事業で培ったノウハウによって差別化を図っています。加えて、首都圏高速道路網へのアクセスが容易な東京湾岸の中心という好立地条件を活かすことで、今、高浜油槽所は、化学品専門タンクターミナルの中で東京湾内最大の出荷量を誇っています。

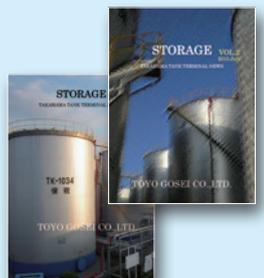
ロジスティック事業の高浜油槽所は、昭和46年に創業し、日本の戦後復興期における石油化学産業の勃興を支えてきました。一般的に、国内外の工場生産された液体化学品が大都市消費地へ販売される際、化学品はタンカーによって海を渡って運ばれ、沿岸タンクに一時保管され、その後、タンクローリーなどの車両によって陸上輸送されます。この荷役、およびタンクでの一時保管を担っているのが油槽所です。この事業には消防法規制など高い参入障壁があり、さらに当社の高浜油槽所は、ファインケミカル事業で培ったノウハウによって差別化を図っています。加えて、首都圏高速道路網へのアクセスが容易な東京湾岸の中心という好立地条件を活かすことで、今、高浜油槽所は、化学品専門タンクターミナルの中で東京湾内最大の出荷量を誇っています。

平成29年に予定されている「東京外かく環状道路(外環道)」の開通時には、高浜油槽所は外環道へ2分でアクセスできるようになり、北関東方面への輸送がより一層効率化されます。この利便性をお客様にご理解いただき、活用いただくことで、当社油槽所の稼働率がさらに向上することが期待されます。

### 平成29年の開通が見込まれる外環道と高浜油槽所の位置



— 開通区間    - - - 事業中区間    ○ 調査中区間



高浜油槽所ニュース「STORAGE」お客様に配布することで、外環道開通による高浜油槽所の利便性向上を広くご案内しています

### 3つの組織機能の強化による、 既存事業の成長と新事業の創出

#### 既存事業の成長・新事業の創出



#### 成長に向けた組織機能の強化

マーケティング/研究開発

生産技術の高度化

組織改革/人材開発

りました。今後も、引き続き付加価値の高い製品の研究開発に注力していきます。

次に、財務体質の改善については、2012年、2013年の化成品セグメントにおける2工場建設時の178億円をピークに、売上高拡大に伴う業績改善によって有利子負債は減少傾向にあり、当期は前年同期9%減の154億円となりました。今後も、事業の拡大を図りつつ、需要増が見込まれる機能性化学品を中心とした設備投資を行い、投資効率を上げて財務体質の改善も進めていきます。

#### 感光性材料セグメントの今後について

スマートフォン、LED、ディスプレイの高精細化や車の自動運転化にとどまらず、全てのデ

バイスがスマート化し、さらにはIoT<sup>※2</sup>が進展する中で、半導体が使われる市場の裾野が広がっています。これらの製品に使用される半導体には、主に既存世代の延長線上の技術が応用されるため、当社は製品の品質向上と生産能力の増強によって、今後もこの市場での貢献度を高めていきます。

同時に、IoTの進展によって、さらに小型・大容量で高機能な半導体を求める動きが一層活発になっており、これらの機能を実現する、3次元半導体などの最先端製品の需要も伸び続けています。このように、半導体の微細化・多層化といった、様々なお客様のニーズに幅広くお応えする事業展開を目指していきます。

#### 化成品セグメントの今後について

当社の化成品セグメントは、香料材料、グリーンケミカル、ロジスティックの3つの事業で構成されています。淡路工場と香料工場の新設に伴い、セグメント利益は前期まで赤字でしたが、積極的な拡販と、それに伴う工場稼働率の上昇により、当期において黒字化を達成しました。

2016年5月には、香料材料事業とグリーンケミカル事業とに分かれていた事業組織をひとつの部門に統合しました。機能ごとの組織に集約することで事業スピードを上げ、既存市場を拡大するとともに、新たな市場開拓を進めていきます。また同時に、この組織改革で

※2 IoT: Internet of Things の略。あらゆるモノがインターネットを通じて接続され、モニタリングやコントロールを可能にするといった概念

## 高浜油槽所における化学品の荷役・タンク保管

①液体化学品を積んだタンカーから、油槽所の棧橋で船荷の上げ下ろし(荷役)をします。



②荷役された液体化学品は、タンクに一時保管、またはタンクローリーなどへの充填後、消費地へ輸送されます。



③液体化学品の保管には、油槽所内に計61基あるタンクだけでなく、ドラム単位での取り扱いも行っています。敷地内には、ドラムで製品を保管する危険物立体自動倉庫を設置しています。



④油槽所内には分析室を常設し、ISO9001 認証取得に基づく万全の品質保証体制をとっています(日本海事検定協会と提携)。

は、化成品製造を担う3工場の連携強化や、各工場の特徴を活かした最適な生産体制の構築、さらには、生産技術の高度化による効率的な生産を目指していきます。

化成品は、海外製品との競争激化により事業環境は厳しさを増していますが、当社は引き続き高付加価値製品の開発に取り組んでいきます。

特に香料材料事業では、反応技術や生産技術に磨きをかけ、新興国との差別化を図る高付加価値製品の開発を一層加速させていきます。

またグリーンケミカル事業は、電子材料用途および医薬・農業用途の高純度溶剤を供給し、同時に、長年培ってきた精製蒸溜分離技術の強みを活かして、溶剤のリサイクル市場の拡大に取り組んでいます。溶剤の販売については、感光性材料セグメントと同様、半導体などの微細化の進展に伴い、次世代製品の開発に向けた高純度溶剤のニーズが急速に高まっています。当社では、pptレベル(1兆分の1)の不純物管理など、「高純度・高品質で高い安定性」を実現する高い技術を活かした製品開発を加速させ、引き続き、電子材料業界に貢献していきます。今後は、この既存事業のさらなる成長に加え、新事業の創出を図っていきます。

最後に、ロジスティック事業の高浜油槽所は、化学品専門のタンクターミナルとしては、東京湾内最大の出荷量を誇っています。また、化学品生産で蓄積した高度なノウハウを元に、化学品総合物流基地としての機能を構築し、お客様のニーズに柔軟に対応することで高い評価を頂いています。今後予定される「東京外かく環状道路」の開通時には、北関東を中心とした地域への輸送時間が大幅に短縮されることが見込まれており、物流拠点としての魅力・利便性がより一層向上するものと考えています。

### 株主還元の方

株主の皆様への還元策については、安定配当の維持を基本としつつ、安定的な経営基盤を確保しながら、業績、配当性向、内部留保などを総合的に勘案して決定しています。これらの方針を踏まえ、当期の配当は、期初の計画通り1株当たり年間10円とさせていただきます。今後も、事業の拡大と財務体質の改善とのバランスを勘案しつつ、株主の皆様への還元を行っていきたくと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## トピックス②

### 新製品「Ready to use 3D新鮮ヒト肝細胞培養プレート『PXB-able™』」を販売開始

2016年5月、株式会社フェニックスバイオと共同で開発した新製品「PXB-able™」の商業販売を開始しました。この製品は、肝臓を擬似的に再現したモデルで、薬物性肝障害の予測試験など、医薬品の安全性評価に幅広く使用されることが期待されています。

この製品は、水溶性感光材を使ってプレートの底面表面に特殊加工を施すことで、細胞を生体に近い形態で培養することができる、当社製品の3次元細胞培養プレート「Cell-able®」を応用しています。この細胞培養プレートに、フェニックスバイオ社によって安定的に生産されたマウス(厳格な品質管理のもと、肝細胞の70%以上が人の肝細胞に置き換えられた「PXBマウス®」)から採取した肝細胞を播種した状態でお客様に提供しています。これら2社の技術を併せることで、「PXB-able™」は主に3つの特徴を有しています。

#### 特徴①：届いてすぐに使用可能(Ready-to-use)

新鮮ヒト肝細胞を播種した状態でお客様にお届けするため、直ちに試験を開始できます

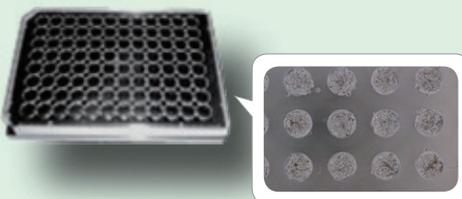
#### 特徴②：機能を長時間維持

肝特異的機能を長期間維持したまま培養することができるため、薬物の肝毒性を多面的に検討できます

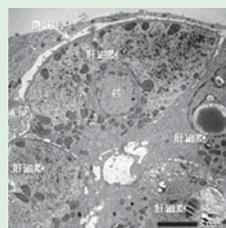
#### 特徴③：細胞培養中も輸送可能

プレート基板表面上に細胞が接着しているため、細胞培養期間中も輸送できます。そのため、薬物を置く作業と評価測定を別施設で実施できます

#### プレート上で培養される細胞のイメージ



#### PXB-able™ スフェロイド (3次元的に細胞が塊状になったもの)の断面

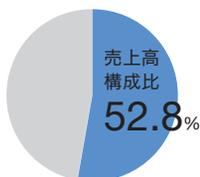


データ監修：  
旭川医科大学 医学部 病理学講座腫瘍病理分野  
西川祐司教授

## セグメント情報

### 感光性材料事業

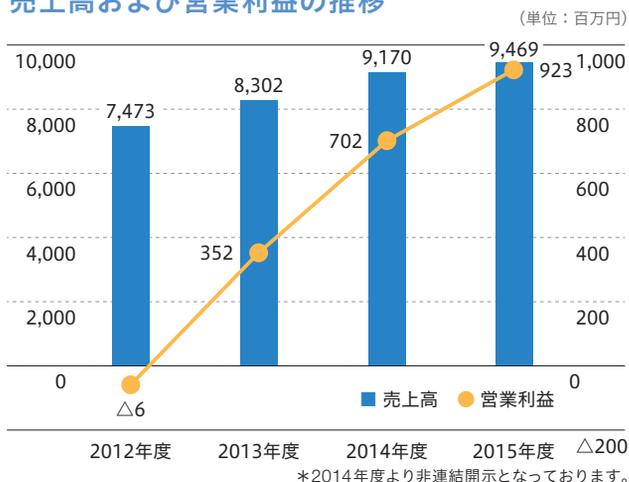
#### 業績の概況



半導体向け感光性材料は、スマートフォン、自動車、LEDなどのマーケットの拡大、ならびにフレッシュメモリーの3次元化による需要の拡大により販売が拡大しました。ディスプレイ製造向け感光性材料も、スマートフォン、高精細テレビ、車載LCDなどの需要拡大により、販売は好調に推移しました。

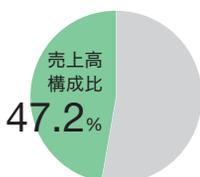
以上の結果、売上高は9,469百万円(前年同期比+299百万円、+3.3%)、営業利益は923百万円(前年同期比+221百万円、+31.6%)と増収増益となりました。

#### 売上高および営業利益の推移



### 化成品事業

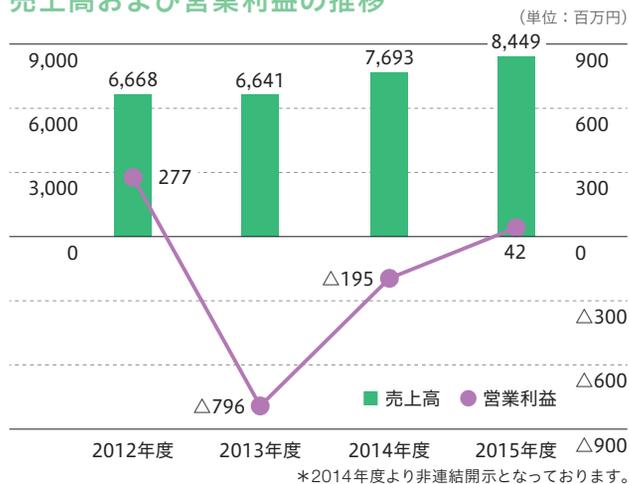
#### 業績の概況



香料材料分野は、海外向けが堅調に推移しました。グリーンケミカル分野は、半導体・フラットパネルディスプレイ向けの需要が好調でした。ロジスティック部門は、顧客満足度向上に努めた結果、タンク契約率、回転率ともに高水準で推移しました。

以上の結果、売上高は8,449百万円(前年同期比+756百万円、+9.8%)、営業利益は42百万円(前年同期比+237百万円)となりました。

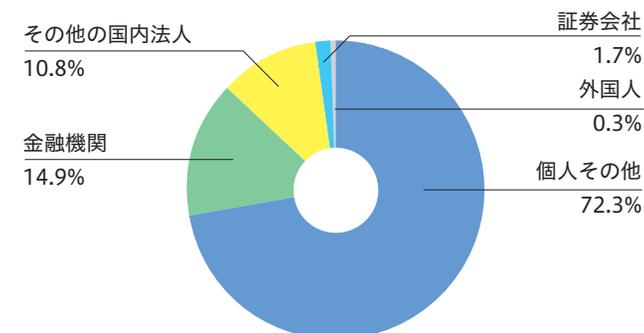
#### 売上高および営業利益の推移



## 株式の状況

|          |             |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 30,000,000株 |
| 発行済株式総数  | 8,143,390株  |
| 株主数      | 7,163名      |

## 株式の分布状況



## 大株主

| 株主名               | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|-------------------|---------|---------|
| 木村 正輝             | 978     | 12.3    |
| 木村 有仁             | 694     | 8.8     |
| 木村 愛理             | 383     | 4.8     |
| (株)千葉銀行           | 298     | 3.8     |
| (株)東京都民銀行         | 298     | 3.8     |
| あいおいニッセイ同和損害保険(株) | 248     | 3.1     |
| (株)TGホールディング      | 200     | 2.5     |
| (学)早稲田大学          | 200     | 2.5     |
| 片岡 文子             | 150     | 1.9     |
| 東洋合成工業社員持株会       | 145     | 1.8     |

当社は、自己株式を205千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式(205千株)を控除して計算しております。

\*自己株式を除く単元未満数を含む

## 会社の概要

|          |  |
|----------|--|
| 商号       | 東洋合成工業株式会社   |
| 本店所在地    | 千葉県市川市上妙典1603番地  |
| 本社及び営業部門 | 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号<br>ヒューリック浅草橋ビル8階  |
| 設立       | 昭和29年9月27日   |
| 資本金      | 1,618,888,703円   |
| 従業員      | 519名   |
| 事業内容     | 感光性材料、電子表示機器の材料などの開発・製造・販売<br>電池材料、電気二重層材料などの研究開発・製造・販売<br>感光性樹脂の研究開発、応用品の製造・販売<br>化学機械・装置の設計・製作・設置工事<br>上記物品の輸出・輸入及び倉庫業 |
| 事業所      | 市川工場、千葉工場、香料工場、淡路工場、<br>高浜油槽所、感光材研究所、西日本営業所  |

## 役員

(平成28年6月24日現在)

|         |        |       |         |
|---------|--------|-------|---------|
| 取締役会長   | 木村 正輝  | 常勤監査役 | 宮崎 誠**  |
| 代表取締役社長 | 木村 有仁  | 監査役   | 萩原 正一** |
| 常務取締役   | 出来 彰   |       | 越山 滋雄** |
| 取締役     | 渡辺 宏一  |       |         |
|         | 森 寧    |       |         |
|         | 坂間 好展  |       | *社外取締役  |
|         | 鳥井 宗朝* |       | **社外監査役 |

## 株主メモ

|                    |   |
|--------------------|---|
| 事業年度               | 4月1日から翌年3月31日   |
| 定時株主総会             | 毎年6月下旬  |
| 剰余金の配当の基準日         | 3月31日 中間配当を実施するときは9月30日   |
| 定時株主総会基準日          | 毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、<br>予め公告いたします。   |
| 単元株式数              | 100株  |
| 公告方法               | 電子公告により行います。<br>公告掲載URL<br><a href="http://www.toyogosei.co.jp/ir/epn.html">http://www.toyogosei.co.jp/ir/epn.html</a><br>ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 |
| 株主名簿管理人            | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号<br>みずほ信託銀行株式会社   |
| 同事務取扱場所<br>株式の諸手続き | みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部<br>口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。<br>特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券株式会社およびみずほ信託銀行株式会社<br>0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。   |

## 第66回定時株主総会決議ご通知

当社第66回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されました。

## 報告事項

## 第66期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)事業報告及び計算書類の内容報告の件

本件は、上記の内容を報告いたしました。

## 決議事項

## 第1号議案 定款一部変更の件

本件は、原案のとおり承認可決されました。

<定款変更の内容>

法令に定める監査役員の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役に関する規定を新設し、補欠監査役の選任決議の有効期間を定めるとともに、補欠監査役が監査役に就任した場合の任期を明確にしました。

## 第2号議案 取締役7名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、取締役に木村正輝、木村有仁、出来彰、渡辺宏一、森寧、坂間好展、鳥井宗朝\*の7名が選任され、それぞれ就任いたしました。

\*社外取締役

## 第3号議案 監査役2名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、監査役に、萩原正一\*、越山滋雄\*が選任され、就任いたしました。

\*社外監査役

## 第4号議案 補欠監査役1名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、法令に定める監査役員の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役に本間達三が選任されました。

## 第5号議案 役員賞与支給の件

本件は、原案のとおり、当事業年度末時点の取締役7名および監査役3名に対し、当事業年度の業績等を勘案して、役員賞与総額38,080千円を支給する旨、承認可決されました。なお、各取締役および各監査役に対する金額は、取締役に 대해서는 取締役会に、監査役に 대해서는 監査役の協議にそれぞれ一任されました。